（別紙6）

[認知症対応型共同生活介護用]

1．評価結果概要表

作成日　平成　19年　9月　5日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600207
法人名	社会福祉法人　ひじり会
事業所名	グループホーム　さくら館
所在地	久留米市田主丸町豊城1751 〒　839-1234　（電話）　0943-72-2596

評価機関名	社会福祉法人　福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年9月3日	評定確定日	

【情報提供票より】（平成　19年　8月　17日事業所記入）

（1）　組織概要

開設年月日	~~昭和~~　・　平成　18　年　10　月　1　日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	15 人　常勤	14 人	非常勤　1 人	常勤換算　14,6 人

（2）　建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての～　1 階部分

（3）　利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃(平均月額)	42,000 円		その他の経費(月額)	円
敷金	有（　100,000　円）		無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有（　円）		有の場合 償還の有無	有
	○　無			無
食材料費	朝　食	円	昼　食	円
	夕　食	円	おやつ	円
	または1日あたり	1,380 円程度		

（4）　利用者の概要（　8月　1日現在）

登録人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護１	5 名	要介護２	5 名		
要介護３	7 名	要介護４	1 名		
要介護５	名				
要支援１	名	要支援２	名		
年齢	平均　83,2 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

（5）　協力医療機関

協力医療機関名	田主丸中央病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

関連医療法人が既にグループホームを運営する中で、地域をテーマに認知症高齢者のみでなく地域の子育て支援・世代間交流としての中核の場となりたいという思いを抱き開設されたホームである。入居者は、回覧板回し、ゴミ出し、公民館の掃除等に職員と共に参加し、地域の理髪店や商店を日常的に利用している。ホーム畑で収穫した野菜をおすそ分けしたり、お返しをいただく等、ごく普通の近隣との付き合いがなされおり、地域の中で地域の一員として暮らしていることを肌で感じ取れる。廊下の天井を利用してこの地方の特産物である葡萄の飾りつけを行い、入居者の提案で袋がけが行われるなど、日々のかかわりの中で入居者から学ばせてもらおうという意識を職員が持ち、入居者一人ひとりに寄り添った支援が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部４） 今回が始めての外部評価の実施である。今後、外部評価結果を、家族、運営推進会議、行政、ホーム職員などに広く周知し、課題の改善に取り組んでほしい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部４） 今回の外部評価受審にあたり、勉強会で外部評価の意義について説明したり、１項目づつ内容について協議するなどの取組みがある。この過程で、人員が手薄になる時間帯の施錠の問題や、入居者の生活歴の把握の重要性に気づくなど、質の向上に向けて取り組む姿勢が伺えた。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 今年の１月より２ヵ月毎の運営推進会議の実施がある。運営推進会議時に、子供会との交流、回覧板回し、畑の活用法等について具体的な提案をうけるなど、様々な情報交換を行っている。前回の運営推進会議では、地域を含めての防災訓練の提案を行い、実施に向けて取組み中であり、地域の協力体制を得る取組み等が実現されることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の訪問時の声かけやその都度の連絡や状況説明がある。２ヶ月毎のホーム便りの発行を通じて、入居者毎の様子を知らせたり、ホーム行事等の案内や報告等により、家族の思いや意見を引き出すような対応がある。また、担当者制を設けることにより、担当者と家族との関係から話しやすい雰囲気作りへの工夫がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部３） 回覧板回し、ゴミ出し、公民館の掃除等に職員と共に参加したり、地域の理髪店や商店の利用、地域ボランティアの受け入れなど地域住民との交流がある。ホーム畑の整地を近隣の方にしていただいたり、ホーム畑で収穫した野菜をおすそ分けしたり、お返しをいただく等、ごく普通の近隣との付き合いがなされている。

2．　調　　査　　報　　告（詳　細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ　理念に基づく運営					
１　理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の作成時に、全職員からアンケートをとるなど、全職員がかかわってのホーム理念の作成がある。地域との関係性や入居者を尊重した対応、笑いが絶えない生活ぶりからも、理念に基づいたケアの様子が伺えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスの中で理念について話し合ったり、理念に基づいた介護計画を作成し実践していくように指導するなど、理念の浸透に取り組んでいる。墨で書かれた理念がフロアー内に掲示されており、自然と目に付く工夫がある。		
２　地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板回し、ｺﾞﾐ出し、公民館の掃除等に職員と共に参加したり、地域の理髪店や商店の利用、地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの受け入れなど地域住民との交流がある。また、ﾎｰﾑ畑で収穫した野菜をおすそ分けしたり、お返しをいただく等、ごく普通の近隣との付き合いがなされている。		
３　理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価受審にあたり、勉強会で外部評価について説明したり、１項目づつ内容について協議するなどの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の１月より２ヵ月毎の運営推進会議の実施がある。運営推進会議時に、子供会との交流、回覧板回し、畑の活用法等について具体的な提案をうけるなど、様々な情報交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がある。ホームが行政区域の境に立地しているという条件から、入居に関して行政担当者と協議・調整を行うなど、行政担当者とのかかわりが見られる。		
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についてのパンフレットを準備し、直系の親族がいない入居者に対して制度の説明を行った事例はある。職員の制度の理解を図るための勉強会等の取り組みや、全ての家族に対しての説明や情報提供等の働きかけはこれからである。	○	全職員が地域権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができるような取組みを期待する。また、家族訪問時や運営推進会議等を利用して広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるよう支援してほしい。
４　理念を実践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時の声かけやその都度の連絡や状況説明がある。２ヶ月毎のホーム便りの発行を通じて、入居者毎の様子を知らせたり、ホーム行事等の案内や報告が行われている。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時の声かけや面談等を通して家族の思いや意見を引き出すような対応がある。また、担当者制を設けることにより、担当者と家族との関係から話しやすい雰囲気作りへの工夫がある。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設から１年未満であり、職員と入居者との馴染みの関係性の継続や職員の離職時の配慮などは、これからの検討課題である。	○	離職する職員と新規採用の職員の採用時期をだぶらせ引継ぎの期間を十分に設けるなど、馴染みの職員が離職する際の入居者へのダメージを最小限に抑えるような工夫や配慮等について、検討してほしい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5　人材の育成と支援					
11	19 追加	○人権の尊重 　法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 　また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、何ら制限を設けてはいない。書道を特技とする職員に、理念を墨書きしてもらったり、歯科衛生士の免許所持者に口腔ケアを担ってもらったり、装飾の得意な職員に入居者と一緒に飾りつけをしてもらうなど、職員の特技や得意分野を活かす配慮がある。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 　法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人本部での研修会で同和問題に取り組んだり、新人研修計画の中に人権問題を入れ込むなど、人権教育・啓発活動への取り組みがある。町内で行われる講話に参加するなど、職員も積極的である。		
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 　運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画にのっとっての法人本部での研修会やホーム勉強会への月に１度の参加がある。外部研修について情報提供を行い、職員の参加を募ったり、館長の支持により参加するなど、外部研修への参加の機会がある。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 　運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人系列内のグループホームや小規模多機能事業所との交流、認知症デイサービス事業所の研修会への参加がある。グループホーム協議会が発足し加入したばかりであり、協議会を通じた職員レベルでの交流等はこれからである。	○	グループホーム協議会の発足と加入を契機に、協議会の今後の展開に伴って、職員レベルでの見学や相互研修、情報交換等の機会作りに務められるなど、グループホーム協議会及びホーム職員の質の向上にむけた取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
II　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ケアマネジャーが面談に赴いたり、ホーム見学の実施、体験入所を行うなど、馴染みの関係作りへの取組みがある。入居後も、入居者と自宅見学を行ったり、こまめに家族との連絡を取るなど、家族との関係性を重視した配慮がある。		
2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	プランターの土の作り方を教わったり、調理時の手順や味付け等の指導をしていただくなど、日々のかかわりの中で入居者から学ばせてもらおうという意識を職員が持っている。		
III　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1　一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴等を詳細に把握し、日々のかかわりのなかでの声かけや入居者の言動から、入居者の思いや希望の把握に努めている。		
2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した生活歴や希望、家族の意向、日々のかかわりの中で把握した情報を基に、担当職員が介護計画を立案し、全職員参加のカンファレンスで協議し介護計画を作成している。介護計画内容は、入居者の思いや希望、できることに着目した内容である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 　介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員による月１回の評価、３ヶ月毎及び状態変化に応じたモニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。毎月のカンファレンスにて、入居者の現状についての話し合いと確認が行われている。		
３　多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の入院先の職員との連携や入院生活における支援を行ったり、他の入居者と一緒にお見舞いに出かけるなどの対応がある。また、在宅復帰後の緊急時の支援を行うなど、柔軟な対応がある。		
４　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 　本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力病院あるも緊急時のみの対応である。今までのかかりつけ医への受診は、ホーム対応にて支援している。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と練り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、看取りの方針について説明を行い同意を得ている。日々のかかわりの中で、看取りについて希望を言われる入居者については、職員間で話題になるも、全入居者・家族の意向の確認までは至っていない。	○	先ずは、重度化した場合の本人・家族の希望の確認から始めるなど、早い段階での働きかけを行い、今後予想される状況変化に応じた繰り返しの話合いと段階に応じた合意を得て、本人・家族の思いに沿った支援を行ってほしい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1　その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人本部の研修会の内容で、接遇を最重点項目に挙げて対応の徹底が図られている。この地方独特の温かみのある優しい表現での言葉使いがなされており、入居者一人ひとりを尊重した対応が見られた。記録類は、鍵のかかる書庫での保管が徹底されている。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてのある程度の流れはあるもの、食事をとるタイミング、食事にかかる時間、日中の過ごし方など、日常生活全般において入居者のペースにあわせた対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜の収穫とそれを使用した食事メニューの立案、食材の買出し、食事の準備や下ごしらえ、調理の指導など、入居者の能力を引き出しながらの対応がある。職員は入居者と同じテーブルを囲みゆっくりと食事を楽しんでおり和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能である。一番風呂の希望への対応や入浴にかかる時間は自由であり、入浴拒否の方へは無理強いしないなど、入浴を楽しめるように努めている。希望があれば、夕食後の入浴も可能である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一入ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の収穫、草取り、玄関前でのティータイム、好きな飲み物の選択、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、買物、生け花教室への参加など、入居者の得意なことやできること、希望を把握したうえでの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買物やホーム中庭の散歩、玄関前でのティータイム、その時々の希望に沿った外出など、個々の入居者の希望に沿った柔軟な支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は、各ユニット玄関や職員出入り口は開錠されている。入居者の状態のきめ細かな把握により外出傾向を把握し、一緒に外出するなどの対応がある。入浴時間帯によっては一時的に施錠することもあり、施錠することについての家族への説明は行われていない。	○	施錠する際の状況や時間帯の説明など、家族への予めの説明と同意を得るように努めてほしい。今後、入居者の状況の変化に伴って、施錠を常態化することなく、安心・安全の基に暮らせるよう常に話し合いを行ってほしい。
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム開所から１年未満であり、防災訓練への取組みはこれからである。運営推進会議で、地域を含めての防災訓練等について提案を行っており、いざという時の地域の協力を得るための取組みに着手し始めたばかりである。	○	運営推進会議で提案している地域を含めての防災訓練の実施を通して、災害等の緊急時に地域の協力が得られるような体制作りへ取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設のメニューを参考にカロリー等に配慮しながらメニューを作成している。食事チェック及び必要な入居者には水分チェックを行い、把握している。カロリー等の制限の必要な場合は本部の栄養士に相談するなどの支援がある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は木目を基調としており、廊下の壁に設けられた飾り棚やテーブルの上には季節の草花が飾られており、ホッと心を和ませてくれる。リビングは広く開放的な空間の中で、入居者がゆっくりと個々のペースで過ごしている風景がみられた。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇、写真、箪笥、椅子、テレビなど、思い出の品や使い慣れた物が持ち込まれており、入居者一人ひとりの個性が伺える部屋であった。		

※ ▒▒は、重点項目。
※ (数字)は、国の標準例による番号